

保護者の皆様

学校評価について

苫小牧市立泉野小学校長 水内 雅史

学校では、12月に実施した保護者・児童アンケート及び教職員自己評価の集計と諸調査等の結果から今年度の学校経営を評価し、次年度の改善に向けた方策について検討を行いました。また、2月21日に学校関係者評価会議を開催し、学校評議委員、町内会役員、主任児童委員、PTA会長・副会長に学校の自己評価と次年度の方向性について評価をいただいております。学校の自己評価及び次年度に向けた改善について次のとおりまとめましたのでお知らせします。

教職員評価	A~よく取り組んでいる B~取り組んでいる C~あまり取り組んでいない D~全く取り組んでいない
保護者アンケート	A~そう思う B~どちらかといえばそう思う C~どちらかといえばそう思わない D~そう思わない E~よくわからない
児童アンケート	A~よくあてはまる B~だいたいあてはまる C~あまりあてはまらない D~あてはまらない

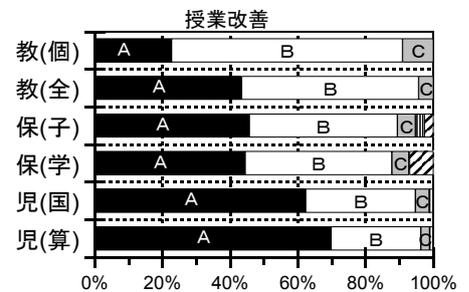
□~結果の考察 ※教職員の(個)は、自分自身の取組としてどうか、(全)は、学校全体の取組としてどうかを評価したもの。

I アンケートの集計

1 授業改善について

教職員	「できた」「わかった」を実感できる授業を行っている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)授業を通して学んだことが身に付きますか。 (学校は)児童が「できた」「わかった」を実感する授業を行っている。	
児童	国語の授業の内容はよくわかりますか。 算数の授業の内容はよくわかりますか。	

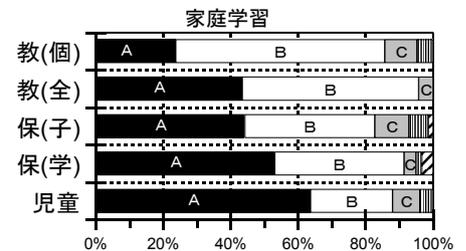
□授業改善に向けた日常の取組が保護者、児童からも評価されている。共通取組事項の目標値である「児童アンケート60%以上」を超えることができた。授業改善の日常化に向けた取組が求められる。



2 家庭学習について

教職員	家庭と連携して家庭学習の定着に取り組んでいる。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)自ら家庭学習に取り組む習慣が身に付いていますか。 (学校は)家庭と協力して家庭学習の定着を図っている。	
児童	進んで家庭学習に取り組んでいますか。	

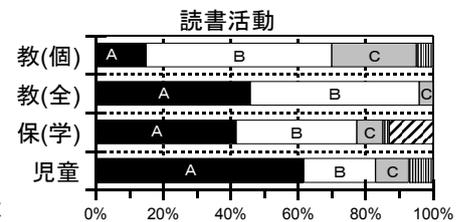
□担任による家庭学習ノートの点検や掲示等により、児童や保護者の意識を高めている。「学年×10分+10分」の家庭学習が、児童・保護者にとって当たり前になるよう、取組を継続していく必要がある。



3 読書活動について

教職員	読書に興味をもたせ読書習慣の定着を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)朝読書などを通して、読書指導の充実に努めている。	
児童	読書するのが好きですか。	

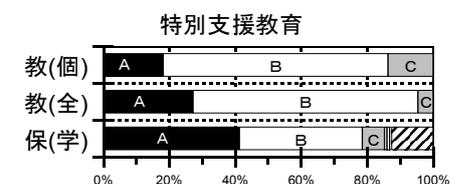
□児童が読書に興味をもつための仕掛けを増やしていくとともに、学校にて保護者に積極的に発信していくことが必要である。



4 特別支援教育について

教職員	一人一人の特性や障害に応じた対応や支援を行っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)一人一人の特性や障害に応じた対応や支援を行っている。	

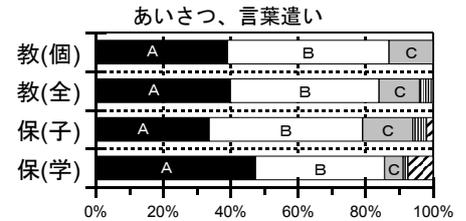
□保護者の特別支援教育に対する理解を深め、児童の障害に応じた適切な措置が進められるようにするためにも、教職員が積極的に特別支援教育に関する研修の受け、児童の特性や障害に応じた適切な支援を行うことができるようにする必要があります。



5 あいさつ、言葉遣いについて

教職員	場に応じたあいさつや正しい言葉遣いの定着を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)自ら家族や地域の方々にも明るくあいさつしていますか。 (学校は)場に応じたあいさつや言葉遣いについて指導している。	

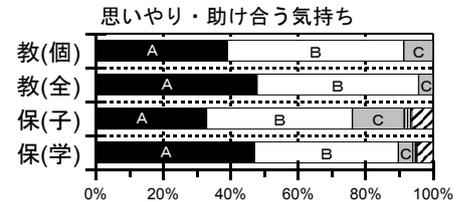
- 指導が地域での実践につながるように、児童会等による児童の主体的な活動を通して実践力を高めていく必要がある。



6 思いやり、助け合う気持ちについて

教職員	学校生活全体で、思いやり、助け合う気持ちを育てている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)友達や下級生が困っていたら、声をかけることができますか。 (学校は)学校生活全体で、思いやり、助け合う気持ちを育てている。	

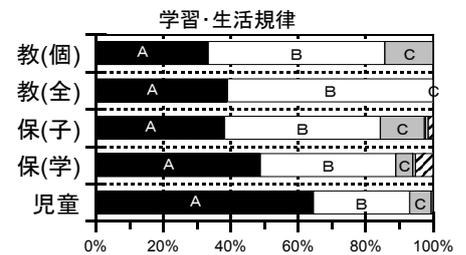
- 指導が地域での実践につながるように、児童会等による児童の主体的な活動を通して実践力を高めていく必要がある。



7 学習・生活規律について

教職員	「泉野スタイル」に基づき、指導を徹底している。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)きまりを守って生活している。 (学校は)きまりや学習規律・生活規律の指導を徹底している。	
児童	学校のきまりを守っていますか。	

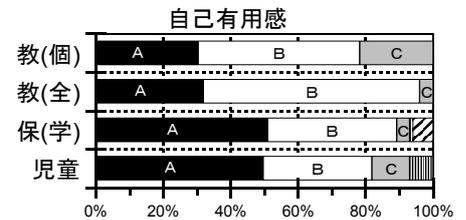
- 「泉野スタイル」は2学期から取り組んだため、教職員の数値が低くなっている。児童の意識が徐々に高まっている。徹底した取組を継続して行うことでより確かな定着につなげていくことが大切である。



8 自己有用感について

教職員	個々の努力や小さな成長を見取って子どもや保護者に伝えている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)児童の成長や頑張りを評価して、自己有用感を育もうとしている。	
児童	自分にはよいところがあると思いますか。	

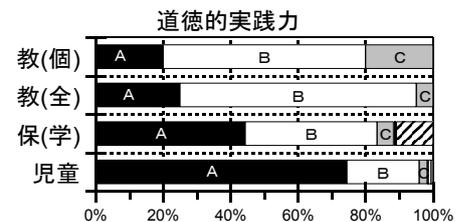
- 教職員の間には児童のよいところを目を向けることが意識化されてきているとうかがえる。共通取組事項の目標値である「肯定的回答80%以上」を超えることができた。いじめ・不登校の未然防止策として今後も充実した取組を行っていくことが求められる。



9 道徳的実践力について

教職員	道徳授業では、自己を見つめさせたり生き方について考えさせたりすることを通して、道徳的実践力を育てている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)道徳授業を通して、日々の生活や生き方について考えを深めさせている。	
児童	道徳の授業では、「自分だったらどうするか」考えていますか。	

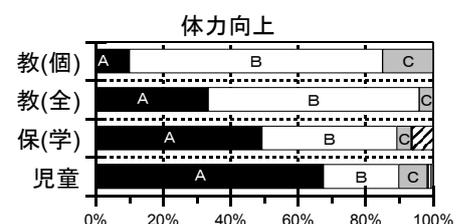
- 今年度から道徳が教科化され、教員は試行錯誤しながら授業していることがうかがえるが、保護者や児童の数値からは、「考え、論議する道徳」の授業づくりに向けて取り組んでいることがわかる。共通取組事項の目標値である『「自分だったらどうするか考えている」の回答70%以上』を超えることができた。保護者に道徳授業を積極的に公開するなど、教科としての道徳について理解を図っていく必要がある。



10 体力向上について

教職員	体育の授業改善や体力づくりを通して、児童の体力向上を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っている。	
児童	進んで体力づくりに取り組んでいますか。	

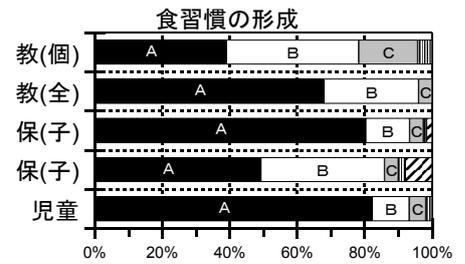
- 児童が主体的に運動できるような仕組（環境や体力づくり週間等の取組）を作ることが必要であり、運動会やマラソン大会等と関連づけしながら継続的・日常的な取組となるよう工夫が求められる。



11 食習慣の形成について

教職員	給食指導や食に関する指導を通して、児童に食べることの大切さを意識付けている。	(個人) (全体)
保護者	(子どもは)毎朝、朝食をしっかりとってから登校していますか。 (学校は)給食指導や食に関する指導などを通して、食育の充実に努めている。	
児童	毎朝、ご飯を食べていますか。	

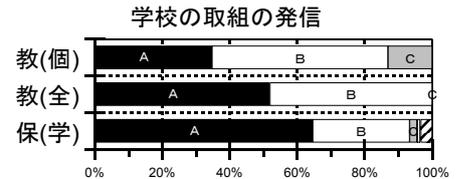
□共通取組事項の目標値である「『毎日、朝ご飯を食べている』」の回答85%以上について、9月の調査では超えていたが今回は超えることができていない。食に関して児童の意識を高める取組を行うとともに、学校からの情報発信を積極的に行い、家庭と連携した取組をさらに充実させる必要がある。



12 学校の取組の発信について

教職員	各種通信や参観日等を通して、保護者や地域に学校の取組や児童の様子を積極的に発信している。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)各種通信や参観日等を通して、学校の取組や児童の様子を伝えている。	

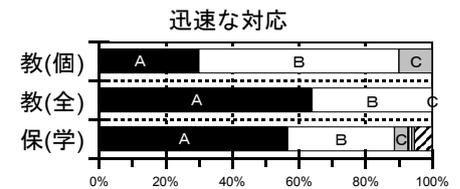
□保護者・地域との連携や家庭からの支援の充実に図るためには、学校の取組について十分に理解していただくことが重要になる。こうしたことから、学級や学年における児童の活動や各校務部における学校の取組についてこまめに発信していくことが求められる。



13 迅速な対応について

教職員	保護者からの相談や要望、児童の悩みや相談ごとに耳を傾け素早く対応している。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)保護者の相談や児童の悩みについて耳を傾け素早く対応している。	

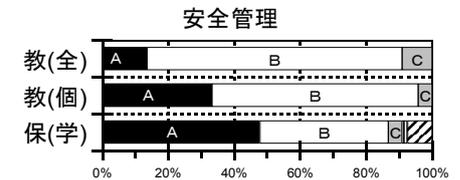
□児童や保護者からの相談に対し、報告・連絡・相談を徹底し、保護者目線に立った対応を心がけていく必要がある。



14 安全管理について

教職員	登下校の安全や災害、学校事故等に適切な対応を図っている。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)安全対策(不審者・交通安全・災害等)を適切に行っている。	

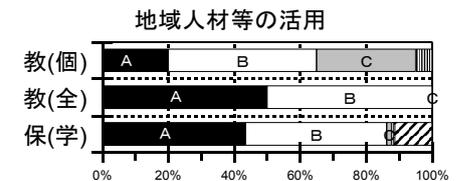
□未然防止の取組、日常点検を怠らず、今後も安全で安心できる学校づくりを目指す必要がある。



15 地域人材等の活用について

教職員	地域の人材や保護者等を積極的に活用した学習や活動に取り組んでいる。	(個人) (全体)
保護者	(学校は)地域の人材や保護者等を積極的に活用した学習や活動に取り組んでいる。	

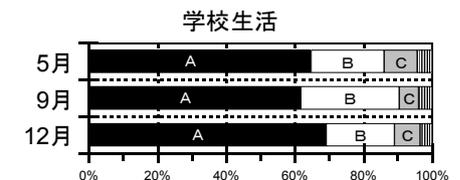
□児童の学習効果や成果を上げるために、地域の人材等を有効的に活用し、その成果を保護者や地域に発信していくことが求められる。



16 学校生活について

児童	学校は楽しい。	(5月) (9月) (12月)
----	---------	-----------------------

□どの子にとっても、居場所のある、自分を認めてくれる学校になるよう、更なる取組の充実に図っていく必要がある。



II 保護者アンケートの記述 (多数記述があった事柄)

- ・家庭学習ノートの点検やノート掲示などの家庭学習に関する取組について。
- ・放課後学習サポートや漢字大相撲、なわとび大会、マラソン大会など、本校の特色ある取組について。
- ・児童に対する親身な対応、保護者への丁寧な対応について。

Ⅲ 次年度に向けた改善点

1 教育課程の編成について（教師と児童の向き合う時間の確保、授業時数の確保）

（1）日課

- ① 朝学習を5分短縮し、放課後の充実を図ります。
 - ・ 1学期の月曜の放課後はクラブ（4年生以上）を実施
 - ・ 2学期以降の毎週月曜の放課後は学習サポート（今年度は木曜に実施）を実施
 - ・ 毎週木曜の放課後を児童委員会の時間とする
 - ・ 水曜は、簡単清掃、昼休みをカットし、放課後は教職員の会議や授業準備等に充てる
- ② 変則日課（S日課）を基本的に廃止します。
- ③ 1・2学期の終業式及び2・3学期の始業式は給食を提供し、午後に授業を実施します。

（2）学校行事

- ① 学習発表会は、日常の授業で学んだことを発表する場とします（今年度と同様）。
- ② 運動会は、学年の種目数は減らさず、競技内容・方法を見直して12時半までに終了します。
- ③ マラソン大会、なわとび大会は練習時間の位置付けなどを変更しながらこれまで通り実施します。
- ④ 4～5月の家庭訪問を学校での個別懇談に変更します。
- ⑤ 教員による登校指導は下校指導に変更します（登校時は校内での児童の対応を優先）。
- ⑥ 集団下校訓練の廃止します（非常時は、一斉下校または保護者への引き渡しとする）。

（3）その他

- ① 外国語及び外国語活動の充実を図るために、3階に「イングリッシュルーム」を開設します。
- ② 教材費等の会計業務を担任から事務職員に移行します。
- ③ 職員会議の回数を縮減します。
- ④ 学校花壇を縮小します。

2 学校経営における具体的取組事項について

（1）学ぶ意欲と確かな学力を育成する取組

① 授業改善

学習・生活規律の確かな定着を目指し、「泉野スタイル」を見直すとともに、年度の早い時期に保護者への周知を図り、家庭と連携した指導に努めます。

② 家庭学習

家庭学習の内容や仕方について、家庭学習ノートの掲示や手引きの配付等を通して指導します。

③ 読書活動

学校図書館司書、図書ボランティアとの連携を図り、児童に学校図書館や読書の魅力について発信したり、読書意欲と質を高めるための図書館イベントを開催したりします。

④ 特別支援教育

通常学級における支援について、教職員の知識を深める研修の充実を図るとともに、児童が障害等について理解を深めるための啓発学習を充実させます。

（2）健康な身体と豊かな心を育む取組

① いじめ・不登校の未然防止

自己有用感を育むために、児童会が主体となった取組を充実させます。

② 道徳教育

学級・学年通信等を通して、道徳授業の様子を積極的に発信します。

③ 体力づくり

運動会やマラソン大会、なわとび大会が、日常的な体力づくりの成果の発表の場となるように工夫します。

④ 食習慣の形成

栄養教諭による家庭科授業の支援や休み時間を活用した食育指導を行います。